

平成29年9月

小山哲史 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸
副主査 竹 内 裕 美
同 今 村 武 史

主論文

Tumour blood vessel normalisation by prolyl hydroxylase inhibitor repaired sensitivity to chemotherapy in a tumour mouse model

(腫瘍マウスモデルにおいてプロリル水酸化酵素阻害剤による腫瘍血管の正常化は化学療法に対する感受性を回復させた)

(著者：小山哲史、松永慎司、今西正樹、前川洋一、北野博也、竹内裕美、富田修平)

平成29年 Scientific Reports DOI:10.1038/srep45621

参考論文

1. Submucosal abscess of the esophagus caused by piriform sinus fistula treated with transoral video laryngoscopic surgery

(経口的ビデオ喉頭鏡手術を施術した下咽頭梨状陥凹瘻に起因する食道の粘膜下膿腫)

(著者：小山哲史、藤原和典、森崎剛史、福原隆宏、河本勝之、北野博也、竹内裕美)

平成28年 ORL 78巻 252頁～258頁

2. Basaloid squamous cell carcinoma arising in an inverted papilloma in the nasal cavity: A case report and review

(鼻腔内反性乳頭腫に生じている類基底細胞扁平上皮癌：症例報告と検討)

(著者：小山哲史、中村陽祐、横山裕子、森崎剛史、福原隆宏、藤原和典、北野博也、竹内裕美)

平成29年 Auris Nasus Larynx 44巻 624頁～628頁

審査結果の要旨

本研究は、腫瘍マウスモデルを用いたプロリル水酸化酵素 (PHD) 阻害剤による腫瘍血管の正常化と化学療法の効果について検討したものである。PHD阻害剤であるDMOGの投与により、低酸素誘導因子 (HIF) を制御し、腫瘍に分布する腫瘍血管の血管数、血管径、密着結合、周皮細胞構造、血管透過性のいずれにおいても正常化することを明らかにした。腫瘍体積については、PHD阻害剤と抗癌剤の両者を投与した群のみアポトーシスおよびDNA障害が顕著で、腫瘍体積の増加が抑制されることを示した。本論文の内容は、腫瘍血管の正常化による腫瘍内微小環境改善が化学療法の感受性を向上させることを明らかにし、新たな治療法の可能性を示唆するものであり、臨床腫瘍学において明らかに学術水準を高めたものと認める。